

# 肩関節腱板修復術の腕神経叢ブロックにおける持続神経ブロックとステロイド添加単回神経ブロックの比較

## 1. 研究目的

肩関節腱板修復術の術後鎮痛として腕神経叢ブロックがあり、腕神経叢ブロックの方法として持続法や単回法があります。持続法は神経叢近傍にカテーテルを留置し、持続で局所麻酔薬を注入します。持続法の利点はカテーテルを抜去するまで効果が持続することであり、欠点はカテーテルの先端位置が体内で移動して十分な効果が得られないことがあること、感染のリスクが増加すること、手技時間がかかること、コストが増加すること等があります。単回法はカテーテルを留置せずに、長時間作用性の局所麻酔薬を神経叢近傍に注入します。利点は手技が平易であり時間がかからないこと、成功率が高いこと等があり、欠点として効果が消失すると痛みが出現することが挙げられます。ステロイドを局所麻酔薬に添加すると神経ブロックの作用持続時間が約 1.5 倍に延長し、副作用も殆ど無いため、単回法で使用されることがあります。本研究は診療録（カルテ）をもとに過去の症例を調査し、ステロイド添加単回腕神経叢ブロックがカテーテルを留置する持続腕神経叢ブロックと同等の鎮痛効果があるのかどうか検討を行うことが目的です。両群が同等の鎮痛効果であることが証明されると、カテーテル留置を行わないことで感染などの合併症の回避、手技時間の短縮、医療費の削減などが期待できます。

## 2. 対象

福岡大学病院において 2015 年 4 月から 2018 年 12 月の期間中に、腕神経叢ブロックによる麻酔管理で鏡視下肩関節腱板修復術を施行された 20 歳以上の患者さんを対象とします。対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

## 3. 研究期間

福岡大学医学部長承認日から 2019 年 3 月 31 日まで

## 4. 研究方法

腕神経叢ブロックで鏡視下肩関節腱板修復術を施行された患者さんについて、診療録をもとに後ろ向きに調査をします。腕神経叢近傍にカテーテルを留置された患者さんと、局所麻酔薬にステロイドを添加してカテーテルは留置しなかった患者さんのそれぞれにおいて、神経ブロックの所要時間、回復室や病棟での術後の痛み、術後に初めて鎮痛薬が投与されるまでの時間、鎮痛薬の種類や量などのデータを収集します。この研究は後ろ向き研究であり、対象患者さんに生じる負担や予測されるリスクはありません。

## 5. 個人情報の保護

研究責任者と研究者は個人情報保護法を遵守し、患者さんの個人情報の保護に努めます。研究対象者のデータは匿名化、暗号化することで、個人が特定されることを防止します。安全管理のため、インターネットに接続していないパソコンに個人情報を保存します。研究終了後、学会発表および学術誌への論文投稿を行う際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

## 6. 研究機関

実施機関 : 福岡大学病院

所在地 : 〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45-1

電話番号 : 092-801-1011 (内線 3515)

FAX : 092-865-5816

研究責任者 : 山浦 健

研究分担者 : 安部伸太郎